



栗原に生まれて 良かった

よし お 吉尾 はな さん(栗駒栗原沖)

市内に暮らし、社会人として働く二十歳の二人。日々の暮らしを栗原で過ごす二人に、市のこれまでの軌跡と、今の栗原はどのように映っているのか、聞きました。

栗原の魅力は人の温かさ

父の勧めで小学2年生から野球を始め、社会人となった今も続けています。野球のおかげで、これまでたくさんの方と出会えて、合併して良かったと思っています。

また、中学校の野球の試合では、面識のない地域の人たちが「おらほの中学校」だからと言って、試合の応援に来てくれるなど、その人の温かさを感じました。このように地域の人たちが優しいところも、栗原の魅力です。

父の勧めで小学2年生から野球を始め、社会人となった今も続けています。野球のおかげで、これまでたくさんの方と出会えて、合併して良かったと思っています。

父の勧めで小学2年生から野球を始め、社会人となった今も続けています。野球のおかげで、これまでたくさんの方と出会えて、合併して良かったと思っています。

栗原は交通アクセスも良く、暮らしやすいと思います。私が住む瀬峰地区は、電車で仙台市にもアクセスできますし、隣接する登米市や大崎市にも近く、私も高校は大崎市内の

これからも住み続けたい ちようどいい場所

さ さ き かず し 佐々木 和志 さん(瀬峰上富)

田舎過ぎず、都会過ぎず

栗原は交通アクセスも良く、暮らしやすいと思います。私が住む瀬峰地区は、電車で仙台市にもアクセスできますし、隣接する登米市や大崎市にも近く、私も高校は大崎市内の

高校に通っていました。また、お店も大型店を含め市内にあるため、生活に不便を感じません。栗原は、田舎過ぎず、都会過ぎず「これからも住み続けたい、ちようどいい場所」だと思います。

「変わらない場所」と 「変わる場所」



県内外からたくさんの方が訪れ、街に活気が戻っていることを感じます。さらに、市は、子どもの医療費を無料にするなど、子育て支援が手厚いと感じています。そのようなこともあり、友達は市内に残りたいという人も多く、就職時期を迎え、就職先を市内に絞る友人もいます。

「人口減少は止められないでしょうが、人としての温かさを失わずにいてほしい」と。市誕生20年。新しい扉に向かって、これまで持ち続けた宝物と、あの日と同じく希望を持って、一歩前へ。今日からまた、新しい軌跡の1ページが始まります。

二十歳のキセキ

市が誕生して20年。10町村の歴史を引き継ぎ「きつと、未来は明るくなる」と。そう信じて、私たちは栗原市民になりました。

時が過ぎ、全国同様に市も人口減少が進み、大都市のような華やかさは、今もありません。

それでも、市の二十歳の若者たちは、こう言います。「栗原に生まれて良かった」と。さらには「これからも住み続けたい場所」と。そして、今や、栗原は全国でも人気の移住先として、多くの注目を集めています。

合併当時、奇跡のような今の状況を誰が想像できたでしょう。とかく何もないと囁かれた当時と変わらず、栗原は今もここにありま

春、雪解けとともに姿を現す栗駒山の駒姿。夏の伊豆沼や内沼を覆いつくすハスの群生、秋の栗駒山の紅葉。そして、冬に編隊を組んでねぐら入りするマガンの群れ。毎年当たり前のように繰り返される自然の営みが、今日もここにありま